

富士本西の

一本杉

く、ON æ æ

富士本西町を通る県道沿いのヒノキ林の中に、大きく枝を広げた一本の杉の大木があります。

今回はこの一本杉のお話を紹介します。

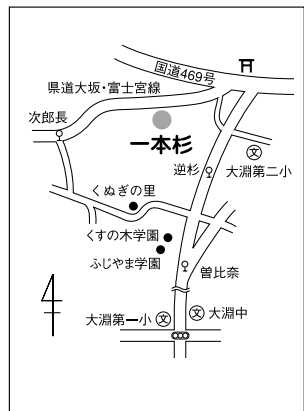
昔、ある夫婦が道に迷い、現在の一本杉のあたりにたどり着きました。妻はおなかに赤ちゃんがいたので、やっとの思いでこの地にたどり着きましたが、急に赤ちゃんが産まれそうになり、その場で出産をしました。しかし、赤ちゃんはすでに死んでおり、妻もその

場で亡くなってしまうまいました。

夫は遺体を運ぶこともできず、その

場に穴を掘って手厚く葬りました。そして一本の杉を植えました。この杉が、現在ある一本杉であると言われています。

富士本には昔から、鷹岡や杉田(富士宮市)をつなぐ道がありました。雨が降ると堀のように水がたまってしまうような道でしたが、人々にとっては重要な生活道路でした。その道の目印となったのが、一本杉です。昔の富士本周辺は畑が多く、道のわきに伸びた一本杉は大変目立ちました。その姿は富士や吉原の町からも見ることができたということです。



▶ ヒノキ林の中に立つ一本杉



一本杉の近くにお住まいの

渡辺和作わさくさん（大淵）

昔は、富士本にはほとんど木はなく、一本杉の周りも一面が芝や茶畑でした。私は実家が落合（中野）なのですが、実家からもこの一本杉はよく見えましたよ。村山（富士宮市）の浅間神社のあたりまで見えるほど、とにかく視界を遮るものがありませんでした。しかし、今では植林された木々が大きくなり、一本杉も目立たなくなっていましたね。

この杉が植えられたものなのか、自然に生えてきたのかもわかりませんが、昔からたった一本だけ生えていました。いつからこの場所に生えているのかなど、詳しいことを知る人は、この近所でもないと思いますよ。

今は、根っこの一部が半分そがれてしまっていてあまり元気がないのですが、このそがれた穴にフクロウが卵を産んだこともありました。